

意味分類から見た日中経済漢字語の違い

盛 凱

目次

はじめに

I 先行研究

- 1.1 日中同形語意味分類
- 1.2 意味分野別における同形語

II 日中経済漢字語の分類

- 2.1 S類 同義語
- 2.2 O類 類義語
- 2.3 D類 異義語
- 2.4 N類 中国語にない日本語の漢字語

III 日中経済漢字語の意味ずれと分析

- 3.1 日中経済漢字語の意味ずれ
- 3.2 日中経済漢字語の意味ずれの分析
 - 3.2.1 意味領域とニュアンスの違い
 - 3.2.2 社会文化による干渉
 - 3.2.3 語構成による違い

終わりに

はじめに

中国と日本は漢字文化圏の中に所属し、共に同じ漢字を使っているため、日中両言語には同形語が存在する。ところが両国で使われている漢字は読み方に異同があり、両言語における漢字の意味も全く同じだとは言いかねる。同形の漢字でも意味が同じもの、意味が重なっているもの、全然違うものがある。

日本語と中国語は系統の異なる言語であるが、日本と中国は共に漢字を使っているため、相手国の言葉は両言語の学習者にとって習いやすい言語で、理解しやすく、親しみを感じさせる一方、日中対訳の面でその意味の相違点によって紛らわしくさせるものもある。

いままで日中同形語に関する多くの研究は、意味上の類似と相違に着目して行われてきたが、この類の同形語はわれわれの言語生活にどのように応用されているのか、あるいはどのような意味ずれがあるのかについてはあまり論じられていない。本稿では『分類語彙表』(増補改訂版・国立国語研究所)から日中同形漢字語を中心として、中国語にない漢字語を含めた経済漢字語を抽出し、意味分類をすることにする。さらに意味範囲、ニュアンス、社会文化、語構成などの面から、より精密な意味分析を試み、中日漢字語彙の意味ずれを探ってみようと思う。

I 先行研究

日中同形語の意味に関する対照研究は両言語の研究者によって盛んに研究されてきた。代表的な研究としては1978年文化庁から出版された『中国語と対応する漢語』の分類が主流で、大河内康憲(1992)、荒川清秀(1979)、守屋宏則(1979)王蜀豫(1998)などが挙げられる。

現在は、同形語を語彙面から体系的に研究され、各分類における同形語の語数を対照する研究が注目されるようになった。研究者は王蜀豫(1999)、曾根博隆(1988)、林玉恵(2002)が挙げられる。

1.1 日中同形語意味分類

日中同形語意味分類に従う先行研究は以下のようなものである。

キーワード：経済、同形語、漢字語、意味分類、意味ずれ

1) 橋純信(1994)の『現代中国語における中日同形語の占める割合』には「漢語水平詞匯大綱」の語彙(連語, 成語など含む)を対象に一般に用いられている国語辞典に照らして中日同形語を探し出し, 意味分類は以下の5種類に分けた。

- ① 両国語義が一致する型。
- ② 両国語に共通する語義以外に, 中国語に別義がある型。
- ③ 両国語に共通する語義以外に, 日本語に別義がある型。
- ④ 両国語に共通する語義以外に, 両国語にそれぞれ別義がある型。
- ⑤ 両国語に共通する語義がない型。

言い換えれば, ①類は同形同義語(S), ②, ③類は同形類義語(O), ④類は同形異義語⁽¹⁾である。

2) 曾根博隆(1988)の『日中同形語に関する基礎的考察』には『現代漢語頻率詞典』の頻率最高的前8000個詞表を対象にその中から同形語を抽出し, 単音節語を除き, 意味対応については「漢字音読語の日中対応」に従って分類した。意味分類は以下の3種類に分けられる。

S: 意味が全く同じか, かなり近いもの。

D: 中国語の意味と日本語の意味が全く異なるもの。

SD (SとDと両方の場合があるもの): 中国語と日本語の意味に微妙な差異があるもの。

上述の意味分類を言い換えれば, Sの同形同義語, Dの同形同義語, SDの同形類義語である。

3) 王蜀豫(1998)の『「現代国語辞典」における同形語』には現代国語辞典における34,997語の中で, 同形語16,226語あり, 漢語全体の46.3%を占めている。なお, 3,200語の一字漢語を除いて, 二字以上の漢語が31,797語ある。そのうち同形語が13,026語ある。そして, 同形語の分類

については, 早稲田大学語学教育研究所が編纂した「中国語と対応する漢語」に従った。

結果を見ると『中国語と対応する漢語』の意味分類の仕方に従って, 分類され, 中日同形語における意味が同じか, または極めて近いものSが一番多く全体の半分以上を占め, 意味の異なる語が最も少なく5%を占め, 意味が一部重なっているが両者の間にずれのあるものは特に注意するものであると指摘されている。

1.2 意味分野別における同形語

意味分野別における同形語の先行研究は次のようである。

- 1) 王蜀豫(1999)の『日本語の語彙体系における同形語』には「現代国語辞典」の収録された語数77,000語から抽出された同形語(一字を含む)16,626語を対象に, 「類語国語辞典」の品詞・意味の二重的な分類方法に従う。彼の研究によれば, 時間分野では, 346語があり, 同形語の数が最も多い語群で, 芸能分野には33語で, 同形語の数が最も少ない語群である。
- 2) 林玉恵(2002)の『日本語語彙からみた日中同形語の構造及びその特色』には「分類語彙表」の収録語数, 約32,600語の中で日中同形語11,687語を対象に日本語語彙における日中同形語の品詞, および意味分野の分布を見て来た。結果を品詞別にみると, 「1. 体の類」の日中同形語は39.63%で最も多く, その次は「3. 相の類」27.49%, 「4. その他」は3.28%である。意味分野別にみると「1. 体の類」の「抽象的關係」が41.11%で, 日中同形語が最も多く, 日中同形語が少ないのは「3. 相の類」の「自然物および自然現象」の21.55%であると指摘された。

II 日中経済漢字語の分類

2.1 日中同形語の概念

日中同形語とは、日中両言語において「同じ形」をしている語のことである。これは日本語と中国語は共に漢字を使用しているからである。ところが、日中同形語は発音に異同があり、字体にも差異が存在する。日中同形語を判断する基準は全く同じ漢字で表記されている語は同形語として判断するが、字体に異同がある場合には、中国語の簡体字をもとの字体繁体字に直して同形語と認められる。

同形語（中国語で“同形词”）とは何かというと、一言といえば、「経済、政治、文化」のように日中で字面が同じ単語である。この呼び方は中国で使われだして、日本で中国語を受けている。概念の定義は違うが、従来の、“日语借词”と呼ばれてきたものが主としてこれに相当する。これを拡大して、この“日语借词”と古来中国語にある語（同じようにいえば日本における漢語借詞）とを合わせ、いずれがいずれを借用したかを問わず、双方同じ漢字（簡体字を問わない）で表記されるものを同形語と呼ぶようになった。

本文では、意味分類を行い、日中漢字語の意味ずれなどに注目することによって、日中同形語の特徴と全貌を把握するために発音の異同は無視することとする。つまり、漢字音読語の日本語の漢語を対象するだけでなく、訓読語の和語も含めることとする。そして、中国語にない日本語も入れるので、本文では、日中漢字語と呼ぶことにする。

2.2 本文での分類方法

以上先行研究に挙げられたが、1978年文化庁が書いた『中国語と対応する漢語』の意味分類は次のようになっている。

(S) 日中両言語における意味が同じかまたは極めて近いもの。

(O) 日中両言語における意味が一部重なっ

ているが、両者の間にずれのあるもの。

(D) 日中両言語における意味が著しく異なるもの。

(N) 中国語にない日本語の漢字語。

なお、(S) は同形同義語、(O) は同形類義語、(D) は同形異義語に言い換えられる。同形同義語の(S) は同形語の中で、語数が一番多く、日本語と中国語の学習者が相手の国の言葉を習うとき、便宜を与えるのである。同形類義語(O) と同形異義語(D) は紛れやすいので、とても注意すべき点である。

さらに、同形類義語(O) は「両国語における意味が一部重なっているが日本語にほかの意味があるもの」、「両国語における意味が一部重なっているが中国語にほかの意味があるもの」、「両国語における意味が一部重なっているが、それぞれほかの意味があるもの」に分類することができる。

以上の先行研究の分類から見ると、漢字語彙の中には、同形であっても日本と中国で意味が異なる場合があり、うっかりすると日中学習者の誤解を見逃してしまう恐れがある。本稿では、『中国語と対応する漢語』の意味分類に従い、『分類語彙表』(増補改訂版・国立国語研究所)により漢字語の多い経済語彙(1. 体の類 3. 相の類)から漢字語彙(1149語)を抽出し、分類してみることにする。そして、代表的な語彙例を通じて、日中漢字語彙の意味ずれを分析してみたいと思う。

二字以上の語彙は字形から分類するのは難しいので、本稿では主に語彙の意味の角度から分類して、日中両語間でのずれの問題を中心に論じることにする。

2.3 日中経済漢字語の分類

次には『分類語彙表』(増補改訂版・国立国語研究所)からすべての経済における日本語二字漢字語を912語、二字以上の漢字語を237語抽出して、それぞれ分類してみる。

2.3.1 日本語二字漢字語 (912語)

S類：(647語 70.94%)

取得 撰取 入手 獲得 把握 收攬 漁獲
 收穫 所得 收得 既得 拾得 拾遺 余得
 徵收 沒收 接收 回收 拿捕 強奪 略奪
 奪取 篡奪 剝奪 收奪 榨取 詐取 略取
 爭奪 奪回 奪還 窃取 遺失 喪失 放棄
 人手 所有 享有 國有 官有 公有 民有
 私有 市有 村有 社有 具有 現有 保有
 確保 所持 把持 保管 保持 捧持 占有
 共有 併有 分有 壟斷 一手 占領 占拠
 割拠 所藏 收藏 家藏 私藏 架藏 秘藏
 珍藏 蓄藏 藏書 藏版 備蓄 蓄財 貯金
 貯蓄 貯炭 貯水 携行 懷中 分担 經濟
 理財 金融 財務 保險 社保 健保 會計
 出納 予算 赤字 家計 生計 糊口 舌耕
 筆耕 収支 出入 收入 定収 現収 稅収
 所得 年収 月収 日収 実収 収益 增收
 減収 未収 支出 入金 出金 還付 決算
 月賦 年賦 日錢 賭博 消費 費消 出費
 浪費 空費 節約 節儉 儉約 勤儉 簡素
 節水 節電 節米 投資 出資 放資 合資
 增資 減資 融資 運用 投機 需給 需要
 需用 実需 外需 内需 官需 軍需 特需
 民需 有用 有益 必要 所要 必需 必用
 必須 必携 必備 不要 不用 不急 無用
 無益 供給 補給 自給 配給 給水 給油
 給電 給血 提供 供出 供米 融通 租稅
 稅金 年貢 惡稅 重稅 苛稅 酷稅 國稅
 村稅 酒稅 地租 關稅 郵稅 課稅 徵稅
 收稅 免稅 收斂 担稅 納稅 內稅 外稅
 課徵 罰金 納付 納入 上納 完納 全納
 半納 皆納 分納 前納 後納 即納 追納
 別納 代納 物納 不納 未納 滯納 延納
 納金 資本 資金 原資 巨資 外資 學資
 遊資 基金 財源 稅源 資產 貨財 國富
 動産 私産 家産 遺産 恒産 財産 財力
 巨財 巨富 私財 淨財 余財 金錢 錢金
 金子 勞銀 貨幣 邦貨 大金 千金 千兩
 万金 小金 小錢 半金 一文 半文 現金

用金 遊金 損金 惡錢 公金 官金 賞金
 課金 獎金 賜金 償金 納金 義金 礼金
 賃金・賃銀 公債 外債 內債 價值 價格
 價額 單價 物價 米價 糸價 紙價 棗價
 地價 正價 定價 原價 予價 壳價 頒價
 壳值 買值 時價 市價 高價 廉價 低廉
 低價 特價 高值 上值 下值 中值 值幅
 騰落 下落 暴騰 高騰 低落 急騰 急落
 奔騰 慘騰 慘落 漸騰 漸落 崩落 統騰
 統落 反騰 反落 費用 負擔 經費 實費
 食費 學費 會費 旅費 路銀 路用 工費
 軍費 戰費 雜費 巨費 冗費 失費 國費
 公費 官費 舍費 村費 自費 私費 徒費
 俸給 俸祿 加俸 年俸 月俸 月給 週給
 日給 時給 謝金 賞与 分封 扶持 高祿
 美祿 微祿 有配 無配 減配 增配 高配
 欠配 報酬 薄謝 謝禮 香典 香料 無稅
 有稅 工錢 印稅 對價 宿錢 錢湯 藥禮
 担保 利息 年利 月利 高利 低利 單利
 複利 得失 利害 得策 有利 不利 一利
 利得 利潤 利幅 私益 公益 國益 共益
 受益 純利 粗利 私利 公利 薄利 小利
 大利 暴利 巨利 果實 純益 益金 差益
 實益 增益 減益 全損 大損 分損 打擊
 營利 功利 利己 利他 商壳 交易 物交
 交換 通商 換金 換物 輸入 輸出 納品
 納車 販壳 發壳 特壳 專壳 即壳 密壳
 市販 実壳 直壳 直販 転壳 競壳 公壳
 乱壳 多壳 廉壳 壳國 壳血 購買 購入
 不買 授受 贈答 讓与 委讓 分讓 割讓
 割愛 遺贈 授与 賦与 付与 分与 分封
 親授 神授 恩賜 下賜 授賞 伝授 寄贈
 呈上 進上 献上 進呈 献呈 捧呈 奉呈
 拜呈 謹呈 送呈 献本 献体 献血 進物
 献物 寸志 神饌 饌米 洗米 供養 餞別
 報謝 恵与 恵贈 恵投 奉納 献納 納采
 寄付・寄附 寄進 献金 奉加 義援 募金
 乞食 (こつじき) 來貢 入貢 朝貢 賄賂
 贈賄 收賄 受取 收受 接受 受理 受納
 嘉納 笑納 納受 領収 収納 查収 拝領

| | | | | | | | | | | | | | |
|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|---------|----|-------|----|
| 受贈 | 受勲 | 特配 | 遅配 | 発行 | 交付 | 発給 | 追給 | 減給 | 降給 | 恩給 | 受給 | 受容 | 密輸 |
| 下付 | 提供 | 試供 | 需給 | 配給 | 補給 | 配本 | 金納 | 元金 | 内金 | 元手 | 円貨 | 金目 | 親株 |
| 配水 | 貸借 | 賃借 | 貸間 | 拝借 | 恩借 | 住宅 | 子株 | 新株 | 旧株 | 端株 | 実株 | 雑株 | 空株 |
| 借用 | 租借 | 借款 | 前借 | 借金 | 借錢 | 借財 | 株価 | 値段 | 激安 | 極安 | 安手 | 安価 | 安値 |
| 国債 | 負債 | 債務 | 旧債 | 起債 | 寄託 | 預託 | 騰貴 | 割引 | 学割 | 歳費 | 日当 | 手当 | 知行 |
| 信託 | 受託 | 供託 | 返納 | 返却 | 返還 | 奉還 | 年金 | 総花 | 賽銭 | 勸進 | 無料 | 無代 | 足代 |
| 返付 | 還付 | 返品 | 返金 | 返本 | 返礼 | 返杯 | 駄賃 | 授章 | 稿料 | 見料 | 地代 | 間代 | 場代 |
| 報恩 | 償却 | 償還 | 補償 | 賠償 | 報償 | 貧富 | 室料 | 席料 | 席代 | 寺銭 | 宿賃 | 宿料 | 茶代 |
| 盛衰 | 貧乏 | 貧困 | 貧苦 | 貧窮 | 無産 | 赤貧 | 酒手 | 酒代 | 玉代 | 車代 | 本代 | 誌代 | 紙代 |
| 清貧 | 貧賤 | 窮乏 | 窮迫 | 逼迫 | 倒産 | 破産 | 薬代 | 花代 | 日歩 | 十一(といち) | 損得 | 便益 | |
| 景气 | 恐慌 | 不振 | 勃興 | 全盛 | 最盛 | 隆盛 | 損益 | 裨益 | 徳用 | 得用 | 丸損 | 痛手 | 我利 |
| 隆昌 | 興隆 | 繁栄 | 繁盛 | 繁華 | 衰微 | 衰退 | 発注 | 受注 | 出荷 | 入荷 | 出札 | 売却 | 信販 |
| 衰亡 | 富裕 | 有産 | 富貴 | 富强 | 栄華 | 共栄 | 落札 | 仲買 | 売文 | 買収 | 裕福 | 譲渡 | 天与 |
| 盛栄 | 盛業 | 豪勢 | 奢侈 | 豪奢 | 驕奢 | 収奪 | 献眼 | 弔花 | 喜捨 | 醸金 | 抛出 | 醸出 | 托鉢 |
| 貴重 | 儉素 | 貧寒 | 閑散 | 極貧 | | | 落手 | 授産 | 配分 | 案分 | 入質 | 返戻(へん | |

O類：(51語 5.59%)

| | | | | | | |
|----|----|----|----|----|----|----|
| 貿易 | 契約 | 独占 | 寡占 | 利益 | 押収 | 先取 |
| 失敬 | 私腹 | 領有 | 無尽 | 經理 | 着服 | 欠損 |
| 送金 | 散財 | 調達 | 運転 | 乱費 | 濫費 | 種銭 |
| 受領 | 利殖 | 貨殖 | 殖財 | 出銭 | 代金 | 代価 |
| 無銭 | 初穂 | 返上 | 携帯 | 得分 | 月謝 | 徳分 |
| 無銭 | 社債 | 社費 | 祝儀 | 献花 | 自腹 | 労賃 |
| 工賃 | 無賃 | 賃銭 | 家賃 | 船賃 | 運賃 | 完売 |
| 入費 | 出費 | | | | | |

D類：(28語 3.07%)

| | | | | | | |
|----|----|----|----|----|----|----|
| 外貨 | 黒字 | 注文 | 特注 | 外注 | 落掌 | 愛蔵 |
| 死蔵 | 運上 | 身上 | 勉強 | 損料 | 抵当 | 上場 |
| 代納 | 給食 | 結構 | 元値 | 定昇 | 三文 | 給料 |
| 給金 | 借料 | 送料 | 先高 | 給与 | 売名 | 元本 |

N類：(186語 20.39%)

| | | | | | | |
|------|----|----|----|----|----|----|
| 円高 | 円安 | 売買 | 株式 | 相場 | 為替 | 不況 |
| 預金 | 利子 | 役得 | 公租 | 鹵獲 | 横領 | 上前 |
| 町有 | 代償 | 退職 | 持参 | 株高 | 株安 | 労災 |
| 採算 | 勘定 | 活計 | 歳入 | 歳出 | 支弁 | 両替 |
| 振替 | 外為 | 決済 | 既済 | 未済 | 自弁 | 身銭 |
| 自前 | 割賦 | 丁半 | 無駄 | 質素 | 入用 | 工面 |
| 公課 | 清栄 | 賦役 | 血税 | 町税 | 益税 | 脱税 |
| 過料 | 科料 | 裏金 | 身代 | 鳥目 | 大枚 | 涙金 |
| 正金 | 残金 | 醸金 | 頭金 | 前金 | 手金 | 敷金 |
| 復配本給 | 有給 | 無給 | 高給 | 薄給 | 初給 | |

2.3.2 日本語の二字以上の漢字語 (237語)

二字以上の漢字語には字形と意味の違いが大きいので、よく理解するために、日本語の後に中国語の訳語をつけることにする。

S類：(133語 56.12%)

生殺与奪/生杀予夺 定額貯金/小額儲蓄 郵便貯金/邮政儲蓄 普通貯金/儲蓄存款 定期貯金/定期存款 経済危機/经济危机 通貨危機/通貨危机 社会保険/社会保険 生命保険/人寿(保)險 養老保険/养老保险 健康保険/健康保險 傷害保険/意外(保)險 火災保険/火災(保)險 損害保険/損害・灾害(保)險 自賠償/(汽车)賠償責任保險 通常会計/一般會計 特別会計/特別會計 国家予算/国家預算 補正予算/补充預算 副収入/副業収入 雑収入/不固定収入 不労所得/不劳而获的收入 国民所得/国民收入 高所得/高收入 低所得/低收入 粗収入/毛收入 大量消費/大量消費 非能率/低效率 不可欠/不可缺少 不経済/不经济 不必要/不必要 自給自足/自給自足 直接税/直接税 間接税/間接税 地方税/地方税 住民税/居民税 人頭税/人头税

法人稅/法人稅 通行稅/通行稅 所得稅/所得稅 消費稅/消費稅 贈與稅/捐贈稅 從量稅/從量稅 租庸調/租用調 固定資產稅/固定資產稅 非課稅/免稅 累進課稅/累進徵稅 公開株/公開股 店頭株/非上市股 優良株/優良股 主力株/主力股 大型株/大型股 成長株/成長股 地方株/地方股 課徵金/特別徵收稅 資本金/資本金 軍資金/軍需資金 軍用金/軍用資金 不動產/不動產 追徵金/附加稅 獎學金/獎學金 奉納金/供品費 保險金/保險金 附加價值/附加價值 利用價值/利用價值 貨幣價值/貨幣價值 平均株價/平均股價 標準價格/標準價格 平均價格/平均價格 最高值/最高價 經常費/經常費 機密費/機密費 人件費/人事費 光熱費/煤氣水電費 生活費/生活費 交際費/交際費 交通費/交通費 諸經費/各種經費 諸費用/各種費用 預備費/預備費 報獎金/獎金 特許權/特許權 使用料/使用費 著作權使用料/著作權使用費 原稿料/稿酬 出演料/演出費 設計料/設計費 弁護料/辯護費 鑑定料/鑑定費 診察料/診察費 保險料/保險費 入場料/入場費 電報料/電報費 賃貸料/租賃費 通行料金/通行費 物件費/物件費 部屋代/房租 宿泊料/住宿費 入院料/住院費 食事代/餐費 線香代/香資 無利子/無利息 一得一失/有得有失 一利一害/有利有弊 一舉兩得/一舉兩得 粗利益/毛利潤 一攫千金/一攫千斤 一石二鳥/一石二鳥 物々交換/物物交換 復貿易/往返貿易 保護貿易/保護貿易 自由貿易/自由貿易 輸出入/進出口 逆輸入/再入 逆輸出/再輸出 密輸入/走私進口 密輸出/走私出口 直輸入/直接進口 直輸出/直接出口 薄利多銷/薄利多銷 受託收賄/受託受賄 贈收賄/收賄受賄 投資信託/信託投資 無一物/一無所有 無一文/身無分文 徒手空拳/徒手空拳 不如意/不如意 榮耀榮華/榮耀榮華 高收入/高收入 物價高/高物價 經濟的/經濟的 高利的/高利益的 實用的/實用性的

O類：(19語 8.02%)

不利益/虧損 義援金/捐款 文化財/文化財產 拌觀料/觀賞費 無形文化財/無形文化財產 普通小包料/普通郵包費 不得策/下策 人身 壳買/販賣人口 稀少價值/稀有價值 密貿易/走私貿易 通信販賣/郵購 訪問販賣/上門銷售 自己破產/(法人主動)申請破產 破格值/出格的高價 獨占的/壟斷性的 營利的/營利性的 實利的/有實際效用的 能率的/有效率的 効率的/有效率的

D類：(12語 5.06%)

門外不出/(決不拿出家門的)珍藏・秘藏 定收入/固定收入 授業料/學費 慰謝料/賠償費・贍養費 慰籍料/賠償費・贍養費 到來物/贈品 不祝儀/喪事 結納金/彩禮 路線株/公路股 可処分所得/可支配收入 轉換社債/可兌換公司債券 勤勞所得/工資收入

N類：(73語 30.80%)

隱退藏/隱匿物資 預貯金/定期儲蓄 當座貯金/活期存款 介護保險/老年護理保險 勞災保險/工人災害補償保險 五斗米/五斗米(很少的俸祿) 賴母子/互助會 筆耕硯田/以撰寫文章為生 小為替/郵政小額匯兌 米相場/美市匯價 普通為替/普通匯價 電信為替/電匯匯價 郵便為替/郵政匯兌 外國為替/外匯 郵便振替/郵政轉賬 特別注文/特殊訂貨 売上稅/營業稅 相續稅/繼承稅・遺產稅 源泉課稅/預扣稅款 源泉徵收/預扣稅款 寄付金/捐款 下宿代/寄宿費 持參金/陪嫁錢 上場株/上市股(票) 出來值/成交價 仕手株/大戶股 公定價格/法定價格 為替相場/外匯行市 世間相場/世俗評價 二束三文/一文不值 天井值/最高價 最安值/最低價 時間給/計時工資 基準內賃金/標準內工資 所定內賃金/規定內工資 金一封/一筆錢 一時金/(一次領完的)退職金 初任給/初次任職的薪金 生活給/基本生活保障工資 能率給/計件工資 固定給/固定工資 基本給/基本工資 定期昇給/定期漲工資制度 厚生年金/厚生省(民政部) 養老金 國民年金/國民養老金 老齡年

金/老齡养老金 扶助料/補助費 無配当/没有股息 高配当/高分紅 我田引水/自私自利 無報酬/没有報酬 手弁当/无報酬劳动 手間賃/工钱・手工钱 木戸銭/入场費・観覧費 為替料/匯費・匯水 倉敷料/棧費・倉庫費 車馬賃/交通費 電車賃/電車費 公定歩合/法定(官方)貼現率 我利我利/自私自利 先物取引/期貨交易 代金引換/交貨付款 裏取引/違法交易 空取引/买空卖空 片貿易/单方貿易 公定相場/法定匯价・官价 月賦販売/分月付款式銷售 人身御供/牺牲品 案分比例/比例分配 裸一貫/白手起家,一无所有 器用貧乏/样精通, 穷苦一生 井戸堀/参与政界而落得一无所有 比例配当/比例分紅

| | 二字語 | 二字以上語 | 合計語数 | % |
|------|-----|-------|------|--------|
| S類 | 647 | 133 | 780 | 67.89% |
| O類 | 51 | 19 | 70 | 6.09% |
| D類 | 28 | 12 | 40 | 3.48% |
| N類 | 186 | 73 | 259 | 22.54% |
| 合計語数 | 912 | 237 | 1149 | |

Ⅲ 日中経済漢字語の意味ずれと分析

以上の日本語経済語彙の二字漢字語と二字以上の複合漢字語の分類から見ると、意味が同じか、または極めて近いもののS類が一番多く全体の67.9%を占めているが、意味が一部重なっているが両者の間にずれのある漢字語は結構パーセントを占めていることがわかった。次に、意味ずれの多いほかの三種類を中心にして、それぞれ分けて、日中漢字語の意味ずれを分析して、まとめたいと思う。

3.1 日中漢字語彙の意味ずれ

3.1.1 S類

以上の分類から見ると、S類の単語は字形も意味も日本語と中国語がほぼ同じだから、訳す場合、日本語の漢字を適当に中国語の漢

字直せばいい。複合語彙の場合、漢字を直すほかに、意味を推理して、中国語の表現に直す必要がある。

3.1.2 O類

O類の中には、中日漢字語の意味は一部が重なっているが、意味ずれがあるので、翻訳するとき、よく分析して、意味のずれに注意すべきである。もし、よく考えずに限定しないで、あるいはそれぞれ自分の国の固定的な言い方で訳すと、意味不明になったりする場合が多い。

よく使われている「貿易」と言う漢字語を例にしよう。日本語の「貿易」とは、「国際間の財物の交換。国際間で商品を輸出入する取引。国際間の商業。」(《広辞苑》第五版)という意味だが、中国語の“貿易”の意味範囲は日本語より広くて、すべての取引と商業的な取引をさすのである。だから、日本語の「貿易」を中国語に訳す場合は“貿易”の前に“国際”をつけて限定する必要がある。また、日本語の「公共性投資」は「道路・鉄道・港湾・ダムなど産業基盤の社会資本のこと。最近では、学校・病院・公園・社会福祉施設など生活関連の社会資本も含めていう。」(《広辞苑》第五版)という意味によって、中国語の経済述語で“城市基本建设投资”と訳したほうが適当だと思う。

3.1.3 D類

D類の語彙は中日の語義が違うものが多い。

この類の語彙は日本から中国に取り入れてから、意味、使用範囲、字形などが変わったりするので、翻訳の難点で、特に注意すべき点だと思う。たとえば、よく使われる「社長」と言う単語を例にしよう。中国では、中日合弁会社に勤めている通訳や職員たちは毎日よく日本語を使っているし、ある程度、日本文化についてもよく理解しているし、翻訳する

場合、ほとんど日本語をそのまま直訳したりして、「広く一般に認められた」誤用になったのである。実は、中国では日本文化に接触していない中国人にとっては「社長」と言う職は結局どういう職かよくわからない人が多いようである。中国語の“社长”は「新聞社と出版社の社長」と言う意味で、日本語の「社長」は「普通会社の最高責任者」と言う意味で、中国に訳すと、「总经理」「经理」と訳したほうが適当だと思う。したがって、日本語の「社員」も同じ類の漢字語で、そのまま中国語漢字語に訳すと、もともと中国語の“人民公社”の“社员”社員と言う意味になる。時代が変わり、今では中国語の表現より“公司职员”と訳さないと通じないのである。

また、この類の漢字語には何の表現形式に合わない語彙もある。この場合、よく日本語の意味を理解して、中国語の習慣や表現や意味によって翻訳しなければならない。たとえば、日本語の「公的扶助」の「公的」は直訳すると、“官方性质的”という意味だが、中国語の表現に直すと、“官方援助”と訳したほうがぴったり当てはまるのである。また、日本語の「定年」と言う語は「法規・規則によって退官・退職するきまりになっている年齢」と言う意味によって、中国語の“退休年龄”と言う意味になり、「先物」は中国語の“期貨”になる。

3.1.4 N類

N類の漢字語はみな中国語にはないものである。この類の語彙はほとんど日本人が自分で造った和製漢字語で、語彙構造も表現も違うので、よく日本語の元の意味を理解して、中国語の習慣的な言い方や専門用語で訳さないと、よく誤用になったりする。

また、この部分の複合漢字語には中国語にはない語彙でできたものなので、複合してからの意味判定が難しくなる。たとえば、日本語の「残高不足」の中の「残高」は中国語に

ない語彙で、複合して、中国語の金融専門用語で二字漢字語の“透支”に訳したほうがもっと適当だと思う。「公定歩合」の「歩合」の意味は判断が難しい。《広辞苑》(第五版)を引くと、「ある金額と他の金額との割合。また取引の額に応じて取る手数料または報酬。」と言う意味である。これによって、中国語の“法定(官方)貼現率”という意味になるのである。また「延滞債権」は中国語の“呆帳”になる。

以上の例から見ると、この類の語彙は大体二種類に分けられる。一種類は日本語が省略形だが、中国語に訳す場合、全称を使わなければならない。たとえば、「円高」は中国語の“日元升值”になり、「公募」は中国語の“公开招募”に直すのである。もう一種類は日本語は全称を取っているが、中国語は省略形を取っているものである。たとえば、日本語の「外国為替」は中国語の“外汇”になり、日本語の「価値保全」は中国語の“保值”と言う意味になるのである。

3.2 中日経済漢字語の意味ずれの分析

3.2.1 意味領域とニュアンスの違い

日本語には類似の意味の和語と漢語の分業があるが、中国語にはそれがない。強いていえば、漢語同士の分業である。日本語の和語と漢語の分業は文体論的差のように言われるが、実はそれにとどまらず、意味領域の差も大きいと言うことである。かつその差は多くの場合、具体的と抽象の差を含み、ニュアンスが違うということである。次に例を挙げてみよう。

○分配

日本語では、「①わけくばること。配分。「利益を平等に分配する。②〔経〕土地所有者には地代、資本家には利潤、労働者には賃金をというように、各人が生産にあずかった割合に従って所得が分けられること。所得分配。分配国民所得、分配法則。」と言う意味である。

中国語では、「①按一定的标准或规定分(东西) (一定の基準と規定により、ものを配る)。○分宿舍/宿舍を割り当てる。②安排,分配 (手配する。適当に人員などを配置する)。○安排工作/仕事の手配をする。③经济学上指把生产资料分给生产单位,或把消费资料分给消费者。(経済学では生産資料を生産者に配る。あるいは消費資料を消費者に配ること。)

日本語では、中国語の②を「手配,配属」で表し、意味範囲は中国より狭い。これに対して、中国語より意味範囲が広い例もある。「予算」という単語は「一会計年度における国または地方自治体の歳入歳出の計画」という意味で中日が共通だが、日本語には「旅行の予算」という使い方もある。つまり、日本語の「予算」は個人的で、日常的な目的の予算という意味があるが、中国語にはないのである。

「有力」では、中国語の「有力」も抽象的な対象に使われるのだが、その抽象にはやはり微妙なニュアンスの違いがある。日本語では「有力な証拠」、「有力な資料」、「有力な学説」、「有力な政治家」、「有力な候補者」などが代表的な例である。日本語の「有力者」と言うと、「勢力のある人と権勢のある人である。「政界の有力者」などの例がある。中国語にもこれに近いものがいくつもある。「有力的証拠」「有力的措施」「有力的武器」などがある。しかしなんとなく中国語が具体的になるのは「有力の大手」「有力の臂膀」ぐらいである。太い腕や大きな手を見て、「力強い」感じる。それはある意味で「有力」なのだが、どうも日本語の「有力」はそれを含むとしても、もう少し違った「有力」、たとえば結果への接近の度合や効率のよさといったものがいうことが多い。たとえば「有力な候補者」は当選する可能性は高いが、本人が力もちというわけではない。もし当選する可能性を力と考えれば、確かにそれも「力」だが、それは物理的な腕力とは区別された力、抽象

的に理解された「力」であろう。「有力な政治家」も腕力の大小を言うのではない。「有力な武器」も日本語では必ずしも火力や破壊力の強さをいうだけでなく、効果的な働きをする武器を意味するが、中国語では何よりもパワフルなものである。したがって比喩的に使われても中国語ではどこかに実際の破壊力を持つものでなければならない。「“現在事实已经给了他们有力的回答”」というのは「事实はすでに彼らに打撃を与えることで回答した」と言うことで、「有力的回答」とはパンチをくらわせたということである。「有力的証拠」はあるが、「有力的学説」「有力的資料」「有力的方法」などは中国語にはない。これらは具体的な「力」をもちようがないからである。

以上に見えるように日本語は抽象に偏るが、その抽象が中国語とはまったくちがった抽象になっている例もある。また、「莫大」を見よう。どちらも量が「きわめて大きい」ことをいうのだが、その「大きい」という自身が日本語と中国語ではまったく違うのである。重なる部分がなく、その形容する対象がわかれてしまった例である。代表的用例を見ると、

日本語：～な金額、～な費用、～な基金、～出費、～な利益、～な損失、～な負債、～な収益、～な予算

中国語：～的关怀、～的关心、～的安慰、～的幸福、～的光荣、～的鼓励、～的侮辱

日本語ではすべて金銭にかかわる表現である。「極めて大きい」と言っても、たとえば「莫大な人口」、「莫大な文書」など言うのはどんなものであろうか。これらはやはり「膨大」の領域である。「莫大なエネルギーをつぎ込んで」などは成立しそうだが、これらにおいても「つぎ込む、費やす」などに伺われるように、エネルギーを価値ではかれるものとして捉えている、金銭や価値の多寡として「きわめて大きい」ことをいうのが「莫大」である。

しかし、中国語では例に見えるように金銭に関して使われることはない。「莫大な損失」「莫大な費用」はいずれも“巨大的損失”“巨大的費用”で、中国語の“莫大”が結ぶのは日本語でいって「思いやり、関心、慰め、侮辱」のような人に与え、また与えられる精神的相互作用、心情のやりとりである。これらはいうまでもなく日本語の「莫大」では成立しないものばかりである。結局、日本語と中国ではまったく重なる部分がなくゆきちがいである。どちらも「大きい」点では変わらないのだが、何が「大きい」かで異なるのである。

3.2.2 社会文化による干渉

日本と中国では違う社会制度や文化があるので、同じ漢字語でも意味が違う。日本の漢字語が中国語で使われる場合、同じ漢字であっても、異なる社会現象や解釈を示す場合が間々あるため、お互いの勘違いの原因となりやすいようである。代表的な例を挙げてみよう。

○小康⁽⁵⁾

『広辞苑』“小康”の項を引くと「①世の中がしばらく無事であること。②病気が少しよくなりかけ（悪い状態を脱して）何とかおさまっていること。○小康状態。○小康を保つ。」とあり、『例解国語辞典』にも、「①戦乱などが一時収まって平和になること。『終戦によって小康を得る』②病気などが一時良くなること。」とある。

これに対して、中国では「中ぐらいの生活を維持できる家庭の経済状況」を“小康”，もしくは“小康人家”と言う。昨今、中国の新聞紙面では、“全面建设小康社会”というスローガンが目につくようになったが、これは「ややゆとりのある生活ができる社会」の意味である。

1979年12月6日、北京で来訪の大平首相（当時）と会見した際、鄧小平氏は“小康”に触れて、こう語った。

「私たちが実現を目指している四つの現代化は、中国式の四つの現代化です。中国の四つの現代化の概念は、日本のような現代化と違い、“小康之家”なのです。」

このとき、通訳は“小康”という耳慣れない言葉に一瞬とまどった。咄嗟のことで、日本語の適訳が浮かばなかった通訳は、そのまま「ショウコウ」と訳した。日本語の「小康」には別の意味があることをもちろん承知の上だった。果たして通じたのだろうかと思いはいささか不安だったが、大平首相（当時）がうなずいたのを見て胸を撫で下ろした。

「それは、具体的には……」と大平首相から質問された鄧小平氏はこう答えている。

「今世紀末までに、中国の四つの現代化がある程度の目標に達したとしても、国民生産総額の一人当たりの平均額は依然として低い水準にあります。たとえば国民生産総額が一人当たり1000ドルに達するのに、さらに大きな努力を払う必要があります。仮にそのレベルに達しても、北西側に比べれば、まだ遅れているのです。もちろん、現在よりはよくなるでしょうが、中国はなお小康状態にあると言えるでしょうか。」

今になって、第一と第二段階の目標はすでに達成され、2002年にさらに高い目標が掲げられた。これまでの“小康社会”と言う言葉の前に“全面建設”という言葉が入り、経済の発展、民主の健全化、科学教育の進歩、文化の繁栄、社会の調和、人民生活の向上などを総合して更なる前進を目指すことになる。

また、「発展」も例の一つである。日本語では「①のびひろがること。展開。②さかえゆくこと。○経済の発展。○手広く活動すること。特に異性ととの交際についていう。」という意味に対して、中国語は「①事物有小到大，由简单到复杂，由低级到高级的变化。/小から大へ，簡単から複雑へ，低いレベルから高いレベルへの変化。○向海外发展/海外へ発展する。○城市发展/都市の発展。②扩大，

増加(組織,規模等)/メンバーなどを増やす,受け入れる。○发展会員/会員を受け入れる。」という意味になる。日本語には「発展家」という言葉があるが,中国語にはこの使い方がない。中国語には「会員を發展する」という意味があるが,日本語にはない。日中語の「發展」は「小から大へ,簡単から複雑へ,低いレベルから高いレベルへの変化」という意味ではほぼ同じだが,中国語の“发展”は「悪い状態へ変化する」場合にも用いることができる。

○“他从小偷小摸发展到犯罪。”/彼は小さなちよろまかしから罪を犯すようになった。

以上の例から見ると,時代的,社会的,文化的な漢字語を訳す場合,社会文化による干渉がけっこう多い。語彙の意味は例の「發展」という単語のように,社会文化や国の「發展」情勢に従って,「發展」という語の意味ずれが生じたりする。だから,この種類の漢字語を対訳する場合,両国歴史・文化・社会などを一通り理解し,具体的に考えなければ,正しい意味に訳せないのである。

3.2.3 語構成による違い

前章のD, N類の漢字語から見ると,日中文法の語構成による違いが多いのである。漢字語については,特に日本語の二字漢字語は大体が論理明快で,疑問の余地のないものである。論理の大筋は中国語文法によって支えられている。その姿は,諸先学の語構成論で,すでに明らかになっているが,記述の構成上省くことができないので,次に簡単にまとめたいと思う。

語構成から見ると,中国語はSVOの言語で,動詞が目的語の前に位置し,「NをVする」はVNとなる。日本人は漢字語彙を作る場合,随意に造ったのではなく,中国固有の造語法の「VN, NS, SV」などの形によって作ってきたのである。日本語にはこの形式に従った造語は非常に多い。それがそのまま日本語

に引きつがれたから,日本製漢語も,「NをVする」が基底にあれば,ほとんどNVとなる。開店,閉店,延期,借金,送金など,手当り次第の例である。ところで,この型に入るものを「ほとんど」といったのはまれに,この型にならないものもあるのである。

たとえば,「景気回復」というと,字面から見ると,中国語とほぼ同じように見えるが,語彙構成から見ると,日本語の漢字語彙は日本語自身の語順の影響でもともと日本語の「NをVする」形の資格の助詞「を」を略して造ったのである。したがって,この単語を中国語に訳す時,中国語の語順で,“恢复繁荣”に訳したほうが適当だと思う。また,「肉食動物」「草食動物」というとき,「肉を食べる」「草を食べる」なのに,食肉,食草といわず,肉食,草食という。手紙文で「前略」と書くとき,元は「前を略す」のだが,略前とはしない。また,型通りの「防水」「防風」がある一方,「水防工事」「風防ガラス」などがある。電車の切符を売る窓口が機会に変わったころ,あの機械を「券売機」と称した。「売名」や「売文」に従えば,「売券」となるものを新しい命名に,あえて日本的に語順を用いたようである。このように,中国語では目的語が述語動詞の後に来ることに対して,「足温機,券売機,盲導犬」などは目的語を述語動詞の前に置くという日本語の原理に引きずられた純和風の漢字語もある。中国語には存在しない。

また,同義漢字からなった漢字語には「買収」「裕福」のように,日本的な語順で出来た語もある。対訳する場合,このような漢字語にも注意すべきものだと思う。

終わりに

一言といえば,中国語では二字漢語とはいえ,日本語よりよほど結びつきは疏で,それぞれが漢字の本来の意味を主張しながら寄り

合い世帯を構成している。漢字一字一字が意味単位である単音節語として当然のことである。それにひきかえ、日本語では漢字語は二字、三字あわせて一意味単位として認識される。このような語の認識過程の差は同じ漢字構成の同形語であっても、意味、用法に次第に大きな隔たりができていくのは避けがたいことである。特に類義漢字語は微妙なもので、いくら似ていても、意味やニュアンスの違いが少しずつはあるのだから、いくつかの類義漢字をいろいろ組み合わせてできる漢字語のそれぞれは、それなりに、独自の表現領域や個性を持つことになり、決してどれも同じような顔をしているのではない。そこに、各自の主張する何かがあることは確かなのである。

「娘」「汽車」「老婆」などが日・中で意味が違うのが有名である。本来すべての漢語において、日中両語に共通する漢字語彙は非常に多いので、このような差があることは容易に想像がつくはずである。しかし、現実にはその中には漢字語彙の意味ずれもあるので、日中双方の学習者にとって、同形語と類義漢字語は常に陥穽である。したがって、日中漢字語、特に両国語の経済などのような専門領域にある用語を識別するには、漢字の意味をよく把握する上に、広い意味での両国歴史・文化・社会などに関する一通りの理解も不可欠だと思う。

注

- (1) S, O, D
S: Same. 日中両国語における意味が同じか、または、きわめて近いもの。
O: Overlap. 日中両国語における意味が一部重なっているが、両者の間にずれのあるもの
D: Different. 日中両国語における意味が著しく異なるもの。
- (2) 中国語の単語は“ ”で示す。日本語と中国語の字形がまったく同じ場合は中国語漢字語を略して、「 」で示す。
- (3) N: Nothing. 日本語の漢語と同じ漢字語が中

国語に存在しないもの。

- (4) 本稿では『分類語彙表』(増補改訂版・国立国語研究所)により、「人間活動—精神及び行為」という項目(1. 体の類 3. 相の類)からすべての経済漢字語彙を(成語を含めて)抽出した。一部重複した語を略した。
- (5) 小康 鄧小平氏の戦略として、中国は経済の三つの段取りを定めた。すなわち、第一段階は1981年から1990年まで。1980年には一人当たりのGDPはわずか250ドルしかなかったが、これを倍に引き上げて500ドルにする。この段階で民主の衣食の問題を解決する。第二段階は1991年から20世紀末まで。一人当たりのGDPをさらに倍増させて1000ドルにし、「小康」社会を実現させる。第三段階は2001年から2020年ごろまで。一人当たりのGDPをさらに四倍増の4000ドルにし、中程度の先進国のレベルにまで引き上げる。

参考文献

- 国立国語研究所(2004.1)『分類語彙表』(増補改訂版 国立国語研究所 大日本図書
文化庁(1978)『中国語と対応する漢語』早稲田大学語学教育研究所日本語科 1998.3『中日・日中辞典』小学館
新村出(1998)『広辞苑』第5版 CD-ROM版文化庁(1983)『漢字音読語の日中対応』大蔵省印刷局
林 大(1964)国立国語研究所資料集6『分類語彙表』秀英出版
陈宝库(2003.4)《日汉汉日经济贸易词典》中国对外经济贸易出版社
金若静(1987.2)『同じ漢字でも』学生社
金若静(1990.12)『続・同じ漢字でも』学生社
香坂順一(1998)『現代中国語辞典』光生館
中国社会科学院語言研究所詞典編集部『現代漢語詞典』2002年増補版 商務印書館
田島毓堂(2002)開発・文化叢書38 比較語彙研究の試み 8名古屋大学大学院国際開発研究科
望月八十吉(1974)『中国語と日本語』光生館
荒川清秀(1979)「中国語と漢語—文化庁『中国語と対応する漢語』の評を兼ねて」『愛知大学文学学会文学論叢』第62輯
前田均(1984)「同文」考—日中同形熟語研究のために『山辺道』28号
飛田良文・呂玉新(1986)『中国語と対応する漢語』を診断する』『日本語学』6月号
飛田良文・呂玉新(1987)『日本語・中国語意味対照辞典』南雲堂

- 村木新次郎（1987）「言語間の意味分野別語彙量の比較—日本語・中国語・ドイツ語の場合—」『計量国語学と日本語処理—理論と応用—』秋山書店
- 大塚秀明（1990）「日中同形語について」『外国語教育論集』12 筑波大学外国語センター
- 遠藤紹徳（1992）「日本語における漢語語彙及び中国語の同形語彙との比較」『語学教育研究論叢』9 大東文化大学語学教育研究所
- 橋純信（1994）「現代中国語における中日同形語の占める割合」『国際関係学部研究年報（日本文学）』15 日本大学国際関係学部
- 大河内康憲（1997）「日本語と中国語の同形語」中川正之（1997）「漢語の語構成」
- 大河内康憲編『日本語と中国語の対照研究論文集』くろしお出版
- 林淑珠（1981）「日本語と中国語の同漢字語の対照—同形異義の問題—」『国語学研究』21 東北大学文学部「国語学研究」刊行会
- 顧明輝（1991）「日中同形同義語の相違点」『外国語教育論集』第13号 筑波大学外国語センター
- 瀋国威（1993）「現代中国語における日本製漢語」『日本語学』12-7 明治書院
- 許羅莎（1997）「日中同形語の意味的特徴—怒り・喜び・悲しみを中心に—」『東洋大学 大学院紀要』第34集 東洋大学東洋大学院
- 王承雲（1998）「同形異義語における中国語と日本語の対照研究—中国語教育の視点から—」『人文科教育研究』25 人文科教育学会
- 王蜀豫（1999）「日本語の語彙体系における同形語」『新大國語』25 新潟大学教育学部国語国文学会
- 陳力衛（2001）『和製漢語の形成とその展開』汲古書院

[Abstract]

The Semantic Shift of Homographs in Chinese and Japanese: Classification of Homographs used in Economics by Meaning

Kai SHENG

Though past studies of homographs in Chinese paid attention to the semantic similarities and differences in Chinese and Japanese discussions on how homographs are being applied in modern language activities and what kind of semantic shift they have gone through are rarely made. This paper examine the semantic shift of homographs in Chinese and Japanese by analyzing all the homographs used in economics, which are listed in a Japanese thesaurus, from the point of view of semantic extension, nuance, socio-cultural effects, and word formation.

Key Words: Economic, Homographs, Meaning Classification Semantic Shift